

国際交流 Newsletter

2017年03月号

発行 延岡市役所総務部国際交流推進室（総務課内）（国際交流員： カリナ・ブリス）

〒882-8686 延岡市東本小路2-1 T e l . (0982) 22-7006 M a i l : kokusai@city.nobeoka.miyazaki.jp

クラシック音楽・ Classical Music・ Klassische Musik



「オデオン広場でクラシック」というクラシックの野外コンサート



延岡総合文化センター

Letztes Jahr im Dezember hatte ich die Gelegenheit, eine Aufführung von Beethovens 9. Symphonie im Kulturzentrum von Nobeoka zu besuchen. Zwar hatte ich in Deutschland schon mehrfach klassische Konzerte besucht, in Japan war dies aber eine erstmalige Erfahrung. Die Halle des Kulturzentrums erinnerte stark an Konzerthallen in Deutschland und man konnte das Gefühl bekommen, gar nicht mehr in Japan zu sein. Aber Konzerthallen dieser Art sehen wohl überall auf der Welt ähnlich aus.

Dann hat das Konzert angefangen und einer der Solisten sang „Oh Freunde“. „Huch, das war doch eben Deutsch“ dachte ich noch, während der Sänger auf Deutsch weiter sang. Natürlich ist der Text in Beethovens Symphonie im Original auf Deutsch, aber es war dennoch etwas überraschend, plötzlich Deutsch zu hören. Zum Konzert war ich gekommen, ohne mir auch nur eine Sekunde Gedanken über die Sprache der Aufführung zu machen und hatte vermutlich erwartet, die Lieder auf Japanisch zu hören. Zum Schluss wurde im vierten Satz die „Ode an die Freude“ von einem Chor gesungen. Ich hatte das Lied selbst einmal im Schulchor gesungen und Teile der Musik hört man auch oft als Europahymne. Mit dem Text im Hinterkopf konnte ich das Konzert bis zum Ende genießen.

去年の12月に延岡総合文化センターで行われたベートーヴェンの交響曲第9番の演奏を見に行きました。ドイツではクラシックコンサートに行ったことが何回もありましたが、日本では初めての経験でした。文化センターのホールはドイツにもありそうなホールで、ホールだけを見ると日本にいる感じは全くしませんでした。このようなコンサート・ホールは世界中のどこでも同じなのかもしれません。

そしてコンサートの音楽が始まりました。「O Freunde(オーフロインデ)」とソリストが歌詞を歌い始めました。・・・「え？今のはドイツ語だったんじゃないか」と私が思っていたら、ソリストはドイツ語で歌い続けました。もちろん交響曲第9番の歌詞は元々ドイツ語だと知っていましたが、日本で突然ドイツ語を聞くと、不思議な感じがしました。歌詞の言語のことをまったく考えずにコンサートへ行き、日本語で演奏するものだと思っていたからかもしれません。コンサートの最後にコーラスがドイツ語で第4楽章の歓喜の歌（Ode an die Freude）を歌いました。学生の頃、この歌を学校の合唱団と歌ったこともあり、メロディーは欧州の歌としてよく聞いたこともあります。そうしたこともあり、歌詞を思いだしながら、コンサートを最後まで楽しみました。

Neben Beethoven gibt es noch viele weitere berühmte deutsche Klassik-Komponisten: Bach, Händel, Wagner, Orff und andere.

Mozarts Vater Leopold stammt ursprünglich aus Augsburg, und so gibt es heute in seinem Geburtshaus unter dem Namen „Mozarthaus“ ein Museum. Natürlich war auch Wolfgang Amadeus Mozart mehrfach in Augsburg um seine dortige Familie zu besuchen.

有名なドイツ人のクラシック作曲家がベートーヴェン以外にも大勢います：バッハ、ヘンデル、ワーグナー、オルフなどです。

有名はモーツァルトの父レオポルト・モーツァルトは南ドイツのアウグスブルク市に生まれ、モーツァルト・ハウス（モーツァルト館）と言うレオポルト・モーツァルトの生家が博物館になっています。もちろん、息子のヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトもアウグスブルクの家族に会いに行ったことが何回もあります。



イベントの時、美術館や市役所の広間などで音楽の演奏が行われています。外はライトアップもありますので、人が多いです！

In zahlreichen deutschen Städten finden zum Beispiel 1-2 mal im Jahr auch spezielle Musik- und Kultur Veranstaltungen statt. Mit einem einzigen Ticket kann man während dieser Veranstaltungen zum Beispiel Konzerte oder Theateraufführungen an verschiedenen Orten der Stadt besuchen. So eine Veranstaltung kann angenommen von 18Uhr bis Mitternacht gehen. Nicht nur in den Theatern und Konzerthallen der Stadt, sondern auch in Kirchen, Museen oder sogar auf Plätzen im Freien finden dann Aufführungen statt. An allen Orten beginnen dann um 18Uhr klassische Konzerte oder andere Shows und die Teilnehmer mit einem Ticket können zu einer ihnen passenden Zeit Aufführungen ihrer Wahl besuchen. Bei vielen Veranstaltungen dieser Art ist bildet klassische Musik einen wichtigen Teil, allerdings gibt es auch Veranstaltungen, deren Fokus auf Theateraufführungen liegt. Die Anzahl der interessierten Personen ist groß und so sind die Städte während solcher Veranstaltungen oft gefüllt mit Menschen. Manche Orte der Stadt werden auch speziell beleuchtet und so entsteht eine besondere Atmosphäre. Daher nehmen auch viele junge Leute teil.

ドイツの様々な都市で年に1、2回、特別な音楽や文化のイベントが行われます。チケットを一枚買うと、まちの色々な場所で音楽の演奏や劇などを見ることができます。このようなイベントは通常18時から24時までです。市内の劇場やコンサート・ホールの中だけではなく、市役所や教会、博物館、美術館の中、そして外の広場などでも演奏があります。すべての場所で18時からクラシック音楽などのパフォーマンスが始まり、チケットを持っている人は好きなパフォーマンスを好きな時間に見に行くことができます。クラシック音楽がメインになるイベントが多いですが、劇を中心にするイベントもあります。興味がある人がとても多いので、このイベントが行われる時はまちの中心部が混んでいます。まちの様々なところでライトアップもあり、素晴らしい雰囲気になります。そうした理由で、若い市民もたくさん参加します。



モーツァルトの父の生家

Im Sommer findet seit 2000 im Zentrum Münchens jährlich mit „Klassik am Odeonsplatz“ ein großes Freiluftkonzert statt. Die Feldherrnhalle am südlichen Ende des Platzes wird dann zur Bühne, auf der rechten Seite wird die im Stil des Spätbarock erbaute Theatinerkirche und auf der linken Seite die Residenz zur Kulisse des Konzertes. Für die Veranstaltung versammeln sich jährlich bis zu 160000 Menschen.

Aber nicht nur bei großen Veranstaltungen hat man ganz einfach die Möglichkeit, klassische Musik zu hören. Oftmals kann man sich die Abschlussaufführungen von Musikstudenten oder Musikwettbewerben sogar gratis anhören, und häufig spielen in den Städten auch Straßenmusiker klassische Musik. Die meisten davon verwenden wohl Streichinstrumente, aber einmal habe ich im Münchner Hofgarten, als ich eigentlich nur einen Platz zum Mittagessen suchte, plötzlich Beethovens Mondscheinsonate gehört. Auf der Suche nach der Quelle bin ich im Dianatempel, einem Pavillion in der Mitte des Gartens, gelandet, in dem ein Mann Klavier spielte. Das Klavier hatte an seinen Füßen kleine Rollen—hatte der Mann also möglicherweise sein eigenes Klavier mitgebracht? Um ihn herum saßen schon einige Personen und haben ihm zugehört. Auch ich habe mir einen Platz ganz in der Nähe gesucht und konnte so neben dem Mittagessen auch der Musik lauschen. So wurde das eine ganz besonders freudige Mittagspause.

ミュンヘン中心にある庭園で一人の男性がピアノを弾いていました。

夏になると、2000年からミュンヘン市の中心部で、年に一回「オデオン広場でクラシック」というクラシックの野外コンサートがあります。オデオン広場の南側にあるフェルトヘルンハレ（将軍堂）というロジア（開廊）がコンサートのステージとなって、ステージの右側にある後期バロック時代に建てられたテアティーナー教会と左側にあるレジデントツと言う宮殿がコンサートの背景になります。毎年16万人がこの特別な演奏を聞きに行きます。

大きなイベント以外にもクラシック音楽を聞くチャンスがたくさんあります。音楽学校生の卒業演奏やコンクールなら、無料で聞くこともできますし、クラシック音楽を演奏しているストリート・ミュージシャンもよく見掛けます。弦楽器を弾いているストリート・ミュージシャンが一番多いかもしれませんが、ある日、ミュンヘンのホーフガルテン（宮殿の隣にあるバロック式庭園）の中で昼ご飯を食べようと思った時、突然ベートーヴェンの「幻想曲風ソナタ」が聞こえました。ちょっと探してみたら、庭園の真ん中にあるディアナ園亭と言う東屋の下にピアノが置いてあって、一人の男性が弾いていました。ピアノの脚の下に小さい車輪がついていたので、もしかしたら演奏している男性が自分のピアノを庭園まで持ってきたのかもしれませんが。次々と周りに様々な人々が座り始めて、ピアノの音色を聞きました。私も近くの席を選んで、昼ごはんを食べながらクラシック音楽の演奏が聞きました。これでとても楽しい昼休みになりました。



簡単なドイツ語を紹介します！

Vielen Dank.	フィーレン・ダンク	どうもありがとう（ございます）
Danke schön.	ダンケシェーン	ありがとうございます。
Willkommen in Nobeoka.	ヴィルコメン・イン延岡	延岡ようこそ
Viel Spaß.	フィール・シュパーズ	楽しんでください。
Viel Erfolg.	フィール エアフォルク	頑張ってください。
Kommen Sie bitte wieder.	コツメン・ズイー・ビツテ・ウィーダ	また来てください。

世界の綺麗なまちの紹介

ザルツブルク

Salzburg (オーストリア)

オーストリア共和国、ザルツブルク州

人口：約15万人



オーストリアのザルツブルク市はよく「世界のクラシック音楽の首都」と言われていて、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトが1756年に生まれたまちです。ドイツとの国境がザルツブルクの西北にあり、ドイツのバイエルン州の近くにあります。実は、モーツァルトが生まれた時、ザルツブルクは「ドイツ国民の神聖ローマ帝国」（15世紀以降の神聖ローマ帝国の名称）のまちでした。

ザルツブルクに生まれた人物の中で、モーツァルトがもっとも有名で、モーツァルトに関係がある場所やイベントもたくさんあります。たとえば、モーツァルトが生まれた家が博物館になって、モーツァルトの楽器や肖像画など、様々な物が展示されています。そして、1877年からモーツァルトの功績を記念する国際音楽祭がたくさんあって、1920年から毎年夏に開かれるザルツブルク音楽祭になりました。現在、それが世界でもっとも盛大なクラシック音楽祭です。

他にも、ザルツブルクの一番有名なお菓子はモーツァルトクーゲルンという名前をつけられています。1890年にザルツブルクのお菓子屋さんが制作したチョコレートやマジパンやヌガーが入っている丸いお菓子です。ピスタチオも大切な材料として含まれていますので、モーツァルトクーゲルンの中身がたまに緑色っぽくなります。（レシピは6ページに書いてあります。）ザルツブルク市の大人気なお土産です。

音楽と舞台芸術を専門とする国立大学として、モーツァルテウム大学が1841年に創設されました。ただ、モーツァルテウムという言葉は大学の名前だけではなく、モーツァルテウム管弦楽団や国際モーツァルテウム財団、そしてコンサート・ホール二つが入っているモーツァルテウムという建物にも使われています。また、モーツァルト国際コンクールと言う若い音楽家のためのコンクールもザルツブルクで行われています。

実は、ザルツブルクが音楽のまちとしてアメリカやアジアで有名になった理由がもう一つあります。その理由はモーツァルトと全く無関係で、1965年に人気となった「サウンド・オブ・ミュージック」と言うアメリカの音楽映画が公開されたからです。アメリカやアジアで大ヒットしましたが、オーストリアでは映画の名前さえ聞いたことがない人がとても多いです。アメリカの映画ですが、撮影の場所はザルツブルクで、今でも撮影場所を訪れる観光客がたくさんいます。お城や様々な教会・大聖堂などもあり、面白いまちです。

ミラベル宮殿の庭園と後ろにあるモーツァルテウム大学



モーツァルテウムのコンサート・ホール（ザルツブルク音楽祭）



ザルツブルクのストリート・ミュージシャン

ザルツブルク市と山頂にあるホーエンザルツブルク城

ドイツ料理コーナー

02月14日の料理教室でザルツブルク市の有名なお菓子、モーツァルトクーゲルン（など）を作りました。

Mozartkugeln



モーツァルトクーゲルン
出来上がりの分量: 40個

調理時間: 約90分

材料

ヌガー
100g

マジパン
320g

ピスタチオ
40g

チョコ
150g

チョコの飾り、ピスタチオ
お好み

作り方

- 1:
ヌガーから40個の小さい団子を作る。（ヌガーが固すぎたら、電子レンジで5秒ぐらいあたためて。）ヌガーの団子を冷蔵庫に入れる。
- 2:
ピスタチオの殻をむいて、できるだけ小さくする。（ブレンダーなどを使う。）
- 3:
生地になるまで、ピスタチオとマジパンを混ぜる。生地を40個に切る。
- 4:
ヌガーを真ん中にくるむようにして、マジパンの団子を40個作る。冷蔵庫に入れる。
- 5:
チョコを湯せんして、溶かす。
- 6:
マジパン団子を少しずつチョコに入れて、チョコ皮を作ってから、好きなように飾って、冷蔵庫で冷やす。
- 7:
できあがり。

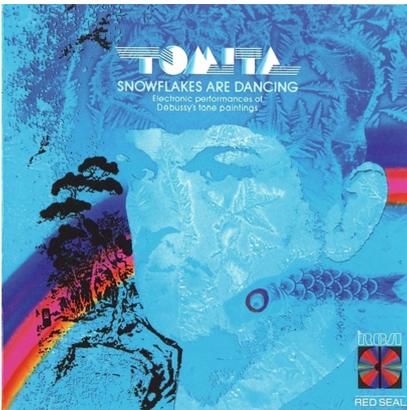


ALTコーナー

延岡工業高等学校のジェームス・サンダース(James Sanders)さんが今月のALTコーナーで音楽について書いてくれました。

My first encounter with Japanese music comes through an unlikely source — the works of the French composer Claude Debussy. At a very young age, I happened to hear an arrangement of Debussy's "Arabesque No. 1" by the Japanese musician Isao Tomita. Hearing this song was startling — I had never before heard a song that only used synthesizers, that was composed in such a unique way.

始めて日本の音楽と出会ったきっかけはフランス作曲家のクロード・ドビュッシーの作品で、珍しいきっかけでした。偶然にも日本の作曲家の富田勲氏がアレンジしたドビュッシーの「アラバスク第1番」を若い頃に聞きました。初めて聞いた時、驚きました。これまでシンセサイザーしか使っていない、そしてこれほどまでに他と比べて素晴らしい曲を聞いたことがありませんでした。



富田勲氏の「月の光」



延岡工業高等学校のALTジェームス・サンダースさん

Debussy is perhaps the most famous Impressionist composer, representing an artistic movement in Europe in the late 19th and early 20th centuries. Impressionism relies on the use of harmonics and exotic scales, like the full-tone and pentatonic scales. As such, it allows for more creative freedom than earlier composers had enjoyed. For example, Beethoven and Mozart's compositions generally relied on traditional scales.

Tomita's work is more impressive when you consider the limitations of synthesizer technology 45 years ago. Because polyphonic synthesizers were not yet available, every "voice" was recorded individually and manually blended together using audio tape. Combining Debussy's "sound paintings" with this new and complicated technology took 14 months. Despite the advances in technology since it was released, Tomita's first album, "Snowflakes Are Dancing," still sounds beautiful today.

Because of this, I am often searching through Book-Off stores to find some hidden treasure of music — not exclusively classical or synthesizer-based. To quote the German philosopher Friedrich Nietzsche, "Without music, life would be a mistake."

ドビュッシーは印象主義の最も有名な作曲家で、19世紀末～20世紀の始めのヨーロッパの芸術運動の代表者だったかもしれません。印象主義の音楽では和声と民族音楽音階(たとえば全音音階か五音音階など)が大切でした。伝統的音階に頼ったベートーヴェンやモーツァルトみたいな以前の作曲家と比べると、印象主義のほうが創造的自由が大きいです。

45年前はあまり発達していなかったシンセサイザー技術のことを考えると、富田氏の作品をより素晴らしく感じるかもしれません。当時はポリフォニックシンセサイザーがまだ創製されていなかったので、録音テープを使って、「ボイス」を一つずつ録音してから手動によるミックスをしていました。ドビュッシーの「音楽で作った絵」を当時使いこなせなかった新しい技術によって新曲にミックスするのに14ヶ月かかりました。その時から月日がたって、シンセサイザー技術が発達しましたが、今でも富田氏の初アルバム「月の光」は素敵な音楽だと思っています。

こうした理由で、よくブックオフで音楽(クラシックやシンセサイザーの音楽以外にも)のお宝を探しています。ドイツの哲学者フリードリヒ・ニーチェが言った通り「音楽なしには生は誤謬となる」。

オープンマインドなら・・・

2月に料理教室のために電気屋でブレンダーを買いに行った時、私にとって面白い会話がありました。



前月の料理教室の開催日は偶然にも2月14日になりましたので、普通の料理だけではなく、チョコのデザートも作れればいいと思いました。友達と相談しながら、結局モーツァルトクーゲルンを作りたいと決定しました。ただ、モーツァルトクーゲルンを作るためにマジパンが必要です！どこで探しても、マジパンは延岡市で見つけられなかったです。このままでは、料理教室のメニューを変更しなければならぬと心配しながら、マジパンのレシピを調べてみました。アーモンドとパウダーシュガーと油があれば、簡単に作れそうでした。アーモンドの殻をむいてから、できるだけ小さくすると書いていました。ドイツに住んでいた時にブレンダーを持っていて、材料を小さくするためによく使っていました。料理をするために便利な調理道具ですので、買おうと思って、電気屋に行きました。

さまざまな値段のブレンダーがたくさん置いてあって、ブレンダー以外にミキサーなどがついているセットもありました。どれを買えばいいかよく分からなくて、迷いました。自分だけで決めきれず、電気屋のスタッフに聞いてみました。「おすすめのブレンダーはどれでしょうか？」と聞くと、まず、パナソニックのブレンダーが一番人気だと教えてもらいました。パナソニックのブレンダーの下に違うメーカーのブレンダーとミキサーのセットが並んでおり、2つを比べるとセットの方がお買得でした。ちょうど旧型のセットがセールでパナソニックのブレンダーと同じ値段になりました。そのセットのメーカーはブラウンというメーカーでした。

「なんでブラウンのセットよりパナソニックの方がおすすめですか？」と聞いてみたら、面白い事実を教えてもらいました。実は、パナソニックの方が人気ですが、スタッフのおすすめはブラウンでした。パナソニックが日本のメーカーで、信頼できると思う人が多くて、人気商品になっているみたいでした。ただ、もうすこしオープンマインドの客なら、ブラウンの方がおすすめだそうです。それでオープンマインドな考え方でブラウンのセットを買うことになりました。

ただ、ドイツ人の私としては、それは本当にオープンマインドな決定だったのでしょうか？どう考えても、ブラウンはドイツのメーカーでしょう・・・
カリナ

Upcoming Events! これからの国際交流イベント (3月・4月)

◇ ドイツ語講座 & ランチと国際交流フリートーク

日時：3月8日・22日(水) & 4月5日・19日(水) 11時00分～13時00分

場所：社会教育センター 会議室3

⇒ドイツ語講座(初級)：ドイツの紹介・簡単なドイツ語の勉強

時間：11時00分～12時00分

⇒ランチと国際交流フリー・トーク：ランチを食べながら、日本語・英語・ドイツ語で会話をしましょう！

時間：12時00分～13時00分 (*お弁当を持参してください。)

◇ カリナの楽しい料理教室 (ドイツ料理など)

日時：3月14日(火) 10時30分～13時30分 & 4月23日(日) 10時～13時30分

場所：社会教育センター 調理室

参加費：1000円

申込み：電話かメールでお申込みください。締切：3月10日(月) & 4月20日(月)

連絡先 (申し込み・質問・コメントなど)

国際交流員：カリナ・ブリス

Tel. (0982) 22-7006 (総務課内)

Mail: kokusai@city.nobeoka.miyazaki.jp